

令和8年度 第2回 進路説明会 資料

～目次～

令和8年度 後期進路日程

～令和8年10月9日(金)現在

- | | | | |
|---|------------------------------|-----|------|
| 1 | これからの進路に関する日程と
取り組んでほしいこと | ・・・ | P.1 |
| 2 | 東京都立高等学校入学者選抜について | ・・・ | P.3 |
| 3 | 国立の高等学校について | ・・・ | P.11 |
| 4 | 高等専門学校(高専)について | ・・・ | P.11 |
| 5 | 私立高等学校入試について | ・・・ | P.13 |
| 6 | その他の進路について | ・・・ | P.17 |
| 7 | 高校入学後の授業料等への
主な支援制度について | ・・・ | P.17 |
| 8 | おわりに | ・・・ | P.19 |

令和8年10月9日(金)
品川区立荏原第五中学校



1 これからの進路に関する日程と取り組んでほしいこと

<1>氏名及び住所等の確認

10月2日(金)提出〆切

進路用の氏名、住所、生年月日の確認をします。受験の際、生徒が願書や答案用紙等に記入する氏名と中学校で提出する調査書等の氏名を統一させます。記入する氏名等の文字は、住民票に記載されているものを使用します。途中で変更のないよう保護者の方の確認をお願いいたします。

なお、卒業証書や卒業アルバムに記載する氏名も合わせて確認をお願いいたします。

<2>第3回進路希望調査

10月19日(月)提出〆切

現時点での進路希望先を記入します。学校名等できるだけ具体的に記入してください。特に、私立推薦及び併願優遇を希望する生徒は、今回の調査で必ず記入してください。
※本校では、今回の調査で進路先として希望する高校の資料を取り寄せます。

○推薦資格 ※A、Bともに基準を満たしていること。

A 校長が推薦するにふさわしいと認めたもの。

B 高等学校等の推薦基準を満たしていること。

<3>諸活動の記録 自己申告書

10月21日(水)提出〆切

調査書の中に、中学校生活3年間のいろいろな活動を記載する欄があります。「諸活動の記録」を記載する際に、生徒本人の申告が必要となります。自己申告書の内容については、三者面談において資格及び記録の認定証等をもとに確認します。



<4>進路面談(9年のみ)

10月28日(水)~11月5日(木)

1学期の評定や2学期中間考査の結果、9月の第2回実力テスト結果を参考にして、進路希望先についての見通しをアドバイスします。あくまでも、希望に対してのアドバイスですので、生徒と保護者の方との十分な話し合いが必要です。特に、私立高校を第1希望にしている生徒は、学校説明会に必ず参加し、学校の教育方針、推薦基準の内容、募集要項等を確認し、募集要項に関わるページを一部コピーし担任に提出してください。



<5>第4回進路希望調査

11月16日(月)提出〆切

基本的に最終の進路希望調査となります。最終的に決定した進路希望先を記入してください。都立や私立、国立を問わず、進路希望調査に記入した高校の学校説明会等に一度も参加していないということのないようにしてください。



< 6 > 第 2 回三者面談 (進路面談)**11 月 27 日 (金) ~ 12 月 4 日 (金)**

第 4 回進路希望調査をもとに、**11 月までの仮評定**を参考にして、受験校等を決定します。特に、**私立高校を推薦又は、併願優遇で受験する予定があり、本校が入試相談へ行くかどうかの決定に三者面談の重点が置かれます**。受験校が決まったら、**私立推薦受験願、私立併願優遇受験願**等の書類を担任へ提出してもらうことになります。また、私立高校の必要書類(募集要項、入学願書等)は、第 2 回の三者面談期間中に、受験者(生徒)自身が各自で準備しておいてください。

**< 7 > 面接練習****11 月下旬 ~ 【予定】**

志望校が決まり、面接試験の日程の早い生徒から、校長又は副校長との面接練習を行います。受験する学校に面接試験がない生徒も本校の面接練習を受けます。面接で志望理由や高校入学後に取り組みたいことなどしっかり答えられるようにしてください。なお、11 月下旬には面接カードを記入し、面接の準備を始めます。特に、身だしなみや言葉遣い等は、本番の面接だけきちんとしようとしても、ぎこちない態度や言葉遣いになってしまいます。日頃から意識し、正しい言動ができるよう身に付けましょう。

**< 8 > 私立高校入試相談会****12 月 15 日 (火) ~ 【本校教員参加あるいは郵送】**

第 2 回三者面談を踏まえ、推薦願や併願優遇受験願の提出があった私立高校の入試相談会へ本校教員が参加あるいは書類を郵送します。私立高校推薦及び併願優遇に関する入試相談受付期間は、12 月 15 日(月)から 2 日間程度で終了することが多いので、上記< 6 >の**私立推薦受験願**や**私立併願優遇受験願**等の書類を期日までに必ず担任へ提出してください。

**< 9 > 調査書作成願 [封筒] の提出****12 月 21 日 (月) 提出 ✕ 切 【予定】**

受験に必要な書類のうち、本校が記入・作成する書類(調査書・推薦書等)を担任に提出してください。なお、都立高校の受検に必要な書類は、東京都教育委員会から本校に届きます。ただし、**一部の都立高校は願書等が異なるので、受検生自身が各自で各都立学校へ取りに行く必要があります**。

また、私立高校の場合は、高校ごとに書類の形式が異なるため、受験生(生徒)自身が各自で「募集要項」を準備してください。募集要項とともに**本校で記入する調査書や推薦書、延納願、その他の書類を「調査書作成願」[封筒]に入れて、担任へ提出してください**。後日、一人一人の出願日に合わせて、担任から調査書等の書類を受け取ることになります。

1 月からは、いよいよ受験(検)本番です。規則正しい生活を送りながら、最後の調整に入ってください。「募集要項」の内容を何度も確認して、手続き等にミスがないようにしてください。分からないことや困ったことがあれば、早めに担任に相談してください。

2 東京都立高等学校入学者選抜について

(1) 推薦に基づく選抜 ※集団討論は一部の学校のみ実施です。

都立高校の推薦に基づく選抜(以下「推薦入試」)では、それぞれの学校が推薦基準を定め、選抜を行います。推薦入試には、「一般推薦」と「文化・スポーツ等特別推薦」、「理数等特別推薦」の3種類があります。一般推薦では、志願者全員に**個人面接**を行います。また、小論文又は作文、実技検査等のうちから各都立高校長が定めたいずれか一つ以上の検査を行います。推薦入試は第1希望で受検するので、合格した場合は、必ずその高校に入学することになります。

そのため、**入学辞退はできません**ので、生徒と保護者の方で十分に話し合ってください。

◇選抜日程について

事 項	日 時
出願(願書受付)	令和9年1月8日(金)から1月18日(月)まで インターネットによる出願 ※志願者がインターネット上の出願サイトにおいて志願者情報等を入力する(令和8年12月18日(金)～)
検査(個人面談・実技検査等)	令和9年1月26日(火)、27日(水)
合格者の発表	令和9年2月2日(火)午前8時30分(ウェブサイト掲載) 午前9時30分(校内掲示)
合格者の入学手続	令和9年2月2日(火)午前9時30分～午後3時30分 2月3日(水) 午前9時～正午

◇推薦入試を行う学校と募集人員枠について

「令和9年度 東京都立高等学校募集案内」で確認してください。

◇応募資格について

- 令和8年12月31日現在、都内に所在する中学校に在籍し、令和9年3月に都内の中学校を卒業する見込みの者
- 在学している中学校長の推薦を受けた者
- 保護者と同居している者で、令和8年12月31日現在、都内に住所を有し、それ以降も都内に住所を有し、かつ、**高校入学後**も引き続き都内から通学することが確実な者
- 志願する都立高校を第1志望とする者(国私立高校を含む)**
※東京都以外に転居予定があったり、特別な事情があったりする場合は、早めに担任に相談してください。

◇出願について

普通科、普通科のコース制、商業・工業・農業・家庭・国際などの専門学科などの全ての学校から1人1校1コース又は1科(1分野)に限り出願することができます。また、**志願変更はできません**。

＜第2希望が指定できる場合＞

一般推薦は、志望する同一の都立高校内にある同一の学科内に2科(2分野)以上ある場合(芸術に関する学科を除く。)は、第2志望として他の1科(1分野)に限り指定することができます。ただし、同一の都立高校内に普通科とコース、農業科と家

庭科等、複数の学科がある場合は、それぞれ別の学科として扱うため、一方を第 1 志望とした場合、他方を第 2 志望に指定することはできません。

例) 第 1 志望を産業科のデザイン分野とした場合、同じ学科のクラフト分野を第 2 志望に指定することはできます。

第 1 希望を外国語コースとした場合、普通科を第 2 希望に指定することはできない。

※ 第 2 志望は、第 1 志望者がその科やコースの定員を満たさない場合に補充するために使用されます。

※ 第 2 志望を願書に記入しなければならないということはありません。残念ながら推薦入試で不合格になっても、自分の希望する科やコースを「学力検査に基づく選抜」で再度、受検したい人は、第 2 志望の欄に科やコースを記入せず、第 2 志望の欄に「なし」と記入します。

※ 文化・スポーツ等特別推薦(令和 9 年度入学者選抜は 90 校で実施)の志願者は、同一日に実施している当該校の一般推薦へ同時に出願することができます。

※ 理数等特別推薦の志願者は、当該校の一般推薦に同時に出願することはできません。

＜再受検について＞

残念ながら推薦入試で不合格になった場合でも、「学力検査に基づく選抜」(第一次募集・分割前期募集、分割後期募集・第二次募集)で、同じ都立高校にも出願が可能です。ただし、一度、推薦入試で受検したからといって、「学力検査に基づく選抜」で同じ高校を受検すれば有利になるということは全くありません。

◇出願手続きについて

都立高校の推薦入試の出願で提出する書類は、推薦入試出願者に本校で配布します。

また、**今年度は、「推薦書」「自己 PR カード」「調査書」は本校が、指定された出願期間に郵送(簡易書留等、東京都教育委員会作成の封筒に入れる)で出願します。**

(1) 推薦書→「一般推薦書」、「文化・スポーツ等特別推薦書」、「理数等特別推薦書」

(2) 入学願書

作成方法については、本校で指導します。

(3) 入学考査料(全日制：2,200 円)を納付

また、文化・スポーツ等特別推薦と一般推薦の両方に出願する場合は、入学考査料を 2 回分支払うことになりますので注意してください。その後、すべての手続きが済むと受験票のプリントアウトが可能となりますので、印刷をしてください。

(4) 調査書 ※本校で作成し、当該の都立高校へ郵送します。

9 年(中学 3 年)の 2 学期の通知表と同じ成績(内申点＝9 年 1 学期と 2 学期の評価・評定を総合した評価・評定)、諸活動の記録等が記載されます。

(5) 自己 PR カード ※「令和 9 年度 東京都立高等学校募集案内」を参照

自分を PR するための書類で、志願者(生徒)本人が黒のペン又はボールペンで記入、もしくは電子ファイルへ入力してプリントアウトして、中学校に提出します。本校へ提出した「諸活動の記録 自己申請書」や本校にある「本校の期待する生徒の姿」を参考にして記入します。受検に面接があるので出願時に自己 PR カードを提出し、点数化されませんが、個人面接の面接資料として活用されます。

◇インターネット出願

今年度も全校でインターネット出願を実施します。詳しい出願方法は後日、お知らせします。

＜手続等の方法(概略)＞

- (1) 出願サイトにアクセスし、ユーザーIDを取得します。…**志願者**
- (2) 顔写真データを用意し、出願サイトで写真を登録します。…**志願者**
- (3) 現住所等、個人情報を入力します。…**志願者**
- (4) 中学校で出願情報の確認を行い、必要に応じて修正します。…**中学校**
- (5) 中学校の承認を受けたら出願サイト上で入学考査料の支払い手続きを行います。…**中学校 → 志願者**
- (6) その他出願に要する書類の送付(成績一覧表、調査書、推薦書、自己PRカード、志願者一覧等) …**中学校 → 高校**
- (7) 受検票出力(インターネット) 印刷したものを必ず当日持参 …**志願者**
- (8) 合格発表日に、出願サイト上で、個別の可否発表を行います。

◇選考について

選考は、各都立高校があらかじめ定めた選考基準に基づき、推薦書、調査書、自己PRカード、入学願書、個人面接の結果、小論文又は作文等(実技検査を実施する学校はその結果を含む)の検査の成績を用いて、総合的に判断して行われます。

合格者の決定は、推薦に基づく選抜の人員を学校ごとに男女別の成績順、又は男女合同の成績順により決定します。「令和9年度 東京都立高等学校募集案内」を確認してください。

◇インフルエンザ等学校感染症罹患^り者等に対する措置

以下の条件に該当する志願者は、全ての選抜において受検することができません。

学校保健安全法第19条により中学校長が出席停止にすることができるインフルエンザ等の学校感染症(新型コロナウイルス感染症も含む)に罹患した者

これらの状況になった場合は、速やかに担任へ相談してください。

※**第一次募集では**、検査日当日に、インフルエンザ等に罹患した者、学校保健安全法第19条により中学校長が出席停止の措置を行った者、新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる者等、受検者本人の責めによらず、やむを得ない事情等で第一次募集で出願した都立学校を受検することができなかった者のうち、希望する者に対して「追検査」の措置が行われます。「推薦に基づく選抜」や「分割募集を実施する高校」では措置はありません。

「追検査」の応募資格に該当する場合は、速やかに学校に報告してください。

◇合格発表について

合格発表は、令和9年2月2日(火)に午前8時30分からウェブサイト掲載で、午前9時30分から入学願書提出校で掲示にて行われます。合格者には、「合格通知書(推薦)」が交付されます。

残念ながら不合格の場合、私立高校の一般入試及び都立高校「学力検査に基づく選抜」(第一次募集・分割前期募集)の出願を行う予定だった生徒は、**すぐに出願をしなければなりません**。私立高校の併願優遇制度で入試相談を行った生徒は、出願の提出期限に注意してください。また、**都立高校「学力検査に基づく選抜」(第一次募集・分割前期募集)の出願郵送期日までが非常に短期間であるため、可否の結果を問わず、入学願書の等の準備をし、担任に提出しておいてください。**

◇入学手続きについて

合格者は、合格となった都立高校において入学手続き期間内に「**入学確約書(推薦)**」を提出し、所定の納付書により、納付期間内(合格発表日の翌日から起算して5日以内。ただし、5日目が土・日・祝日に当たる場合は金融機関等の翌営業日)に入学料を金融機関(銀行・郵便局等)で納付してください。

入学料 <全日制> 5,650 円

※入学手続き期間内に入学確約書を提出しない者は、合格を放棄したものとみなされます。

※入学料の納付がない場合は、入学確約書は無効となります。

(2) 学力検査に基づく選抜

* 都立高校「推薦に基づく選抜」
合格発表日の2日前(土日を除く)

① 第一次募集・分割前期募集日程

事 項		日	時
出願(願書受付) ※全日制・定時制 ともに		令和9年1月29日(金)から2月4日(木)まで 入学願書に関する情報について令和8年12月18日(金)からそれぞれの入学願書受付期間最終日までに、インターネット上の専用サイトに入力する。あとの流れは推薦入試の時と同じです。	
志願	入学願書取下げ	令和9年2月10日(水)	全日制 午前9時～午後3時
変更	入学願書再提出	令和9年2月12日(金)	全日制 午前9時～正午
学力検査		令和9年2月21日(日)	集合 午前8時30分
面接及び実技検査等		令和9年2月21日(日)以後、各都立高校が定める日時	
合格者の発表		令和9年3月1日(月)	午前8時30分(ウェブサイト掲載) 【全日制】 午前9時30分(校内掲示)
			【定時制】 午前8時30分(ウェブサイト掲載) 午後4時(校内掲示)
合格者の入学手続		令和9年3月1日(月)	全日制 午前9時30分～午後3時30分 定時制 午後4時～午後8時
		3月2日(火)	全日制 午前9時～正午 定時制 午後4時～午後8時

◇応募資格について

- 令和9年3月に中学校を卒業する見込みの者又は中学校を既に卒業した者
- 保護者と同居している者で、都内に住所を有し、**高校入学後**も引き続き都内から通学することが確実な者
- ※**都立高校の推薦入試において合格した生徒は受検できません。**
- ※東京都以外に転居予定があったり、特別な事情があったりする場合は、早めに担任に相談してください。

◇出願について

全日制課程又は定時制課程のすべての学校から、1校1コースまたは1科(1分野)を選んで出願できます。志望する同一の高校内に2科(2分野)以上ある場合は、他の全ての科(分野)に志望順位をつけて出願することができます。ただし、同一の都立高校内に普通科とコース、農業科と家庭科等、複数の学科がある場合は、それぞれ別の学科として扱うため、一方を第1志望とした場合、他方を第2志望に指定することはできません。ただし、立川高校の理数科を第1志望とする者は同校の普通科を、科学技術高校の理数科を第1志望とする者は同校の科学技術科を、それぞれ第2志望に指定することができます。

◇出願手続きについて

調査書は本校が、指定された出願期間に郵送(簡易書留等、東京都教育委員会作成の封筒に入れる)で出願します。

***一部の面接を実施する高校の出願手続きにおいては、自己PRカードを提出します。**

(1) 入学願書

記入方法については、本校で指導します。

入学考査料(全日制：2,200 円、定時制：950 円)を金融機関(銀行・郵便局等)で納付します。その後すべての手続きが済むと受験票のプリントアウトが可能となりますので、印刷をしてください。

(2) 調査書 推薦入試(P.4)で使用するものと全く同じです。

※本校で作成し、当該の都立高校へ郵送します。

*「令和9年度 東京都立高等学校募集案内」参照

◇志願変更について(第一次募集全日制のみ)

出願後、1回に限り志願の変更ができます。

(※推薦入試では、志望校を変更することは一切できません。)

例年、出願日翌日の新聞に発表される倍率を見て志願変更を希望する生徒がいますが、志願変更については手続きも複雑ですので、生徒と保護者の方とよく検討してから担任に相談してください。

※志願変更する場合は、学校や学科が変わるわけですから、入学を希望する理由が変わります。もし、面接がある学校に志願変更する場合は、志望動機などをきちんと再考する必要があります。

※チャレンジスクールに出願後、全日制高校、浅草高校、荻窪高校へ志願変更する場合には、新たに調査書及び面接がある学校については、自己PRカードが必要となりますので注意してください。(入学考査料の差額がある場合は支払います)

※浅草高校、荻窪高校に出願後、チャレンジスクールへ志願変更する場合は、調査書の提出は必要ありません。しかし、自己PRカードに代えて学校指定の志願申告書を作成しなければいけません。

◇学力検査について

検査教科等のうち1教科(面接及び実技検査等を含む)でも受検しなかった場合は、受検を放棄したものと見なされます。面接及び実技検査等を行う科(分野)を第2志望以下の志望順位とした者については、当該の科(分野)において実施する面接及び実技試験等を行います。

<集合時間及び時間割>

	開始時間	～	終了時間	時 間	実施教科
集 合	午前 8 時 30 分				
第 1 時限	午前 9 時 00 分	～	午前 9 時 50 分	50 分	国 語
第 2 時限	午前 10 時 10 分	～	午前 11 時 00 分	50 分	数 学
第 3 時限	午前 11 時 20 分	～	午後 0 時 10 分	50 分	英 語
第 4 時限	午後 1 時 10 分	～	午後 2 時 00 分	50 分	社 会
第 5 時限	午後 2 時 20 分	～	午後 3 時 10 分	50 分	理 科

(注) 英語学力検査時間の最初の約10分間に、リスニングテストを実施します。

※国際高校及びエンカレッジスクールの時間割は各都立高校が定めます。

◇選考について

選考は、調査書(内申点)、学力検査(入試得点)、実技検査、小論文または作文、面接、スピーキングテスト等を合計した成績(総合成績)を用いて総合的に判断して行われます。実技検査、面接等は、実施した高校のみ総合成績に含まれます。

学力検査の得点と調査書点の合計は、1000 点、それにスピーキングテスト 20 点で 1020 点満点となります。学力検査の得点と調査書点の比率は、全日制は 7 : 3、芸術及び体育に関する学科は 6 : 4 となります。

＜学力検査の得点(入試当日の得点)＞

学力検査の得点は、総合得点を計算する際、志望校の「学力検査の得点と調査書点の比重」と入試教科によって次の式を使って換算します。

学力検査の得点：調査書点	5 科受検校の場合	3 科受検校の場合
7 : 3	学力検査の得点 $\times 700 \div 500$	学力検査の得点 $\times 700 \div 300$
6 : 4	学力検査の得点 $\times 600 \div 500$	学力検査の得点 $\times 600 \div 300$

＜調査書の学習の記録換算内申と内申点＞

(1)換算内申の計算方法

ア 学力検査を **5 教科で実施**する高校の場合は、学力検査を行う教科の評定数値を 1 倍した数値と学力検査を行った以外の教科の評定を **2 倍**

(国数英社理) $\times 1 +$ (音美体技) $\times 2 = 65$ (オール 5 の場合)

イ 学力検査を **3 教科で実施**する高校の場合は、学力検査を行う教科の評定数値を 1 倍した数値と学力検査を行った以外の教科の評定を **2 倍**

(国数英) $\times 1 +$ (社理音美体技) $\times 2 = 75$ (オール 5 の場合)

(2) 調査書点の計算方法

調査書点の満点は、各高校が決めた「学力検査の得点と調査書点の比重」における調査書点分となります。つまり、7 : 3 であれば、300 点です。その満点に受検者の換算内申を掛けて換算内申の満点 65 で割ると計算できます。小数点以下は、切り捨てとなります。

受検者の調査書点 = 受検者の換算内申 $\times$ 調査書点の満点 $\div$ 換算内申の満点

*ただし、都立深沢高校、北園高校、武蔵野北高校では、受検者ごとに 7 : 3 と 10 : 0 のそれぞれの比率に基づき学力検査の得点と調査書点の合計を算出した上で、どちらか高い方を当該受検者の選考に用います。

＜スピーキングテスト＞

今年度も、東京都中学校英語スピーキングテストの結果を入学者選抜に活用し、英語 4 技能のうち「話すこと」の能力をみます。A から F までの 6 段階の評価を 20 点満点に点数化されます。

スピーキングテストの結果 (評価)	A	B	C	D	E	F
都立高等学校入試での活用 (点数化)	20 点	16 点	12 点	8 点	4 点	0 点

【総合点を計算する例】

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技・家	英語
評定	5	4	3	3	3	4	5	3	5
学力検査	70	90	50	60	—	—	—	—	80

ア 5 教科受検型で、学力検査の得点：調査書点が 7 : 3 の都立高校を受検

- ① 学力調査点：国語 70 点＋数学 50 点＋英語 80 点＋社会 90 点＋理科 60 点＝350 点
→換算点は $350 \times 700 \div 500 = 490$ 点
- ② 換算内申：(国 5＋数 3＋英 5＋社 4＋理 3)＋(音 3＋美 4＋保 5＋技 3)×2＝50
- ③ 調査書点： $50 \times 300 \div 65 = 230.7\cdots$ →小数点以下を切り捨てし、230 点
- ④スピーキングテスト：B＝16 点
- ⑤総合得点：490＋230＋16＝736 点（1020 点中）
※総合得点順にしたときにこの点数で募集人数の順位内に入っていれば合格
- イ 3 教科受検型で、学力検査の得点：調査書点が 6：4 の都立高校を受検

- ① 学力調査点：国語 70 点＋数学 50 点＋英語 80 点＝200 点
→換算点は $200 \times 600 \div 300 = 400$ 点
- ② 換算内申：(国 5＋数 3＋英 5)＋(社 4＋理 3＋音 3＋美 4＋保 5＋技 3)×2＝57
- ③ 調査書点： $57 \times 400 \div 75 = 304$ 点 ※小数になった場合、小数点以下切り捨て
- ④スピーキングテスト：B＝16 点
- ⑤ 総合得点：400＋304＋16＝720 点

<第一次募集・分割前期募集における学力検査問題の自校又はグループ作成について>

高校名及びグループ名	実施教科
日比谷 戸山 青山 西 八王子東 立川 国立 新宿 墨田川 国分寺	自校で作成した学力検査問題 3 教科(国語、数学、英語)及び都立高校共通問題 2 教科(社会、理科)で行う。
国際	自校で作成した学力検査問題 1 教科(英語)及び都立高校共通問題 4 教科(国語、数学、社会、理科)で行う。

<傾斜配点について>

コース制高校や、全日制の単位制高校では、傾斜配点を行っています。傾斜配点とは、特定の教科の得点に比重をかけてその教科が得意な生徒を有利に扱うようにすることです。例えば、外国語コースの場合、英語の得点を 2 倍にして 100 点満点を 200 点満点にすることによって英語の得意な生徒の総合得点を上げるようにします。

<面接点・小論文および作文・実技検査点について>

面接等を実施する高校は、面接等の成績を点数化したものを総合成績に加算します。

◇男女合同選抜（男女別定員制の撤廃）

令和 5 年度から男女別定員制は完全撤廃されており、男女合同選抜となります。

◇エンカレッジスクールとして指定された都立高校について

エンカレッジスクールの選考では、**学力検査を実施しません**。調査書、面接、小論文又は作文及び実技検査の結果を総合した成績と入学願書による志望及び都立高校長が必要とする書類(自己 PR カードも含みます)を用いて、総合的に判断して行います。

◇合格発表及び手続きについて

合格発表は、**令和 9 年 3 月 1 日(月)に午前 8 時 30 分からウェブサイト掲載で、午前 9 時 30 分から入学願書提出校で掲示にて、行われます**。その他、注意事項や手続き方法は、推薦入試の場合(P.5)と同じです。第 2 志望以下の学科・コースを指定した場合、そちらで合格の場合もあるので、よく確認してください。

合格者には、「**合格通知書**」が交付されます。合格者は、合格となった都立高校において入学手続期間内に「**入学確約書**」を提出し、所定の納付書により、納付期間内(合格発表日の翌日から起算して 5 日以内。ただし、5 日目が土・日・祝日に当たる場合は金融機関等の翌営業日)に入学料を金融機関(銀行・郵便局等)で納付してください。

入学料 <全日制> 5,650 円 <定時制> 2,100 円

※入学手続期間内に入学確約書を提出しない者は、合格を放棄したものとみなされます。

※転居などの理由でしかたなく入学を辞退する場合は、入学手続期間内に必ず担任に辞退の理由を伝えてください。入学を辞退する場合、本校校長から合格した都立高校校長に辞退の連絡をしなければなりません。なお、志望校の変更等で「行きたくなかった」という理由での辞退はできません。

②全日制第二次募集日程

第一次募集で募集人数に達しなかった高校が、都立や私立、国立を問わず進路が決定していない生徒を対象に行う制度です。例年、受検倍率は高く、かなり厳しい状況が予想されます。

※令和8年度入学者選抜から全日制課程での分割募集は廃止となりました。

事 項		日	時
出願(願書受付)		令和9年3月4日(木)	午前9時～午後3時 ※持参
志願 変更	入学願書取下げ	令和9年3月5日(金)	午前9時～午後3時
	入学願書再提出	令和8年3月8日(月)	午前9時～正午
学力検査		令和8年3月9日(火)	集合 午前8時30分
面接及び実技検査等		令和8年3月9日(火)以後、各都立高校が定める日時	
合格者の発表		令和9年3月12日(金)	午前8時30分 (ウェブサイト掲載) 正午 (校内掲示)
合格者の入学手続		令和9年3月12日(金) 3月15日(月)	正午～午後3時 午前9時～正午

③定時制第二次募集日程

事 項	日 時	
出願(願書受付)	令和 9 年 3 月 25 日(木)	午後 3 時～午後 7 時 ※持参
学力検査等	令和 9 年 3 月 26 日(金)	集合 各都立高校が定める時刻
合格者の発表	令和 9 年 3 月 29 日(月)	午前 8 時 3 0 分 (ウェブサイト掲載)
		午後 3 時 (校内掲示)
合格者の入学手続	令和 9 年 3 月 29 日(月)	午後 3 時～午後 7 時
	3 月 30 日(火)	午後 3 時～午後 7 時

◇出願について ※推薦入試や第一次募集とは異なり、各都立高校へ持参

第二次募集は、1校に限り出願できますが、志望校に複数の学科、コース、科(分野)があり、募集がある場合は、志望の順位をつけることができます。(第一次募集と異なって、コースや科をまたがって出願できます) 定時制の場合も志望する同一の学科内に2科又は同一の都立高校内に2部以上ある場合は、志望順位をつけて出願できます。出願書類の種類は、第一次募集と同じですが、願書の様式は、第二次募集用を使用し、全日制と定時制では、異なった様式のものになります。

◇検査教科について

エンカレッジスクールや定時制の一部の高校では学力検査を実施しません。第二次募集の検査教科も、3教科(国語・数学・英語)の学力検査で、面接等は各高校が実施を定めます。面接・実技検査を伴うコース及び科(分野)を第2志望以下の志望順位とした者についても、面接・実技検査を行いますので注意してください。

◇選考について

基本的に、第一次募集と同様に選考が行われます。ただし、学力検査の得点と調査書点の比率は、6 : 4 あるいは 5 : 5 の比率から各高校が選んで選考します。(7 : 3 はありません)

◇合格発表と手続きについて

入学願書提出校で掲示にて、受検番号順に受検番号による発表があります。

3 国立の高等学校について

国立大学によって設立されている附属高校です。国立大学の研究に実験・協力するための「教育実験校」ですから、募集人数は少数です。通学区域や通学時間などを制限している学校もあります。また、併設大学を受験する時、附属高校であっても特典は全くありません。共通の募集要項はなく、それぞれの学校で決定しますので、実施要項については、各自で問い合わせてください。

- ・東京科学大学附属科学技術高等学校
- ・東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校
- ・お茶の水女子大学附属高等学校
- ・筑波大学附属駒場高等学校
- ・筑波大学附属高等学校
- ・東京学芸大学附属高等学校
- など

4 高等専門学校(高専)について

工業に関する専門的な知識を学ぶことを目的とした 5 年間で卒業する学校です。都内には、以下の 3 校があります。卒業後、大学 3 年に編入が可能です。都立産業技術高等専門学校の学力検査は、都立高校の第一次募集・分割前期募集の学力検査よりも早く実施され、3 教科で行われます。詳しい入学者選抜実施要綱については、学校説明会に参加したり、各校の HP を確認したりしてください。

- ・都立産業技術高等専門学校(品川区、荒川区)
- ・国立東京工業高等専門学校(八王子市)
- ・私立サレジオ工業高等専門学校(町田市)

<都立産業技術高等専門学校の入試日程>

	入学願書受付	学力検査等	合格者の発表	入学手続
推薦に基づく入試	令和 9 年 1 月 8 日(金)から 1 月 18 日(金)まで インターネットによる出願 ※志願者がインターネット上の出願サイトにおいて志願者情報を入力する。 (令和 8 年 12 月 18 日～)	1 月 27 日(水) 集合 午前 8 時 30 分 小論文及び面接	2 月 2 日(火) 午前 8 時 30 分 ウェブサイト掲載	2 月 2 日(火) 午前 9 時 30 分～午後 3 時 30 分 2 月 3 日(水) 午前 9 時～正午
学力検査に基づく入試 第一次募集	令和 9 年 1 月 29 日(金)～2 月 4 日(木) インターネットによる出願 ※志願者がインターネット上の出願サイトにおいて志願者情報を入力する。 (令和 8 年 12 月 18 日～)	2 月 15 日(月) 集合 午前 8 時 30 分 国語・数学・英語	2 月 19 日(金) 午前 8 時 30 分 ウェブサイト掲載	2 月 19 日(金) 午前 9 時 30 分～午後 3 時 30 分 2 月 22 日(月) 午前 9 時～正午

	第二次 募集	3月4日(木) 午前9時～午後3時 ※高専品川キャンパス に 志願者が 持参	3月9日(火) 集合 午前8時30分 国語・数学・英語	3月12日(金) 正午 ウェブサイト掲載 または高専品川キャンパスに掲出	3月12日(金) 正午～午後3時 3月15日(月) 午前9時～正午
--	-----------	---	-----------------------------------	---	--

※都立産業技術高等専門学校の「推薦に基づく選抜」出願者は、都立高校の「推薦に基づく選抜」を出願することはできません。また、合格者は、都立高校への出願はできません。
さらに、「学力検査に基づく選抜」の合格者は、都立高校の「学力検査に基づく選抜」出願をしても受検することはできません。

※「推薦に基づく選抜」及び「学力検査に基づく選抜(第一次募集)」では、高専所定の様式で「推薦書(推薦に基づく選抜のみ、親展扱い)」や「調査書(親展扱い)」を郵送する。

(自己PRカード不要、入学考査料は12,600円)

※第一次募集で募集人数が達しない場合は、第二次募集を行います。

5 私立高等学校入試について

◇入試相談について

入試相談とは、私立高校が行っている制度で、私立高校側が本校から提出された書類をもとに、推薦や併願優遇等の入試での合格可能性について相談する制度です。全ての私立高校で入試相談を行っているわけではありませんので注意してください。入試相談日は例年、12月15日(火曜日)から各私立高校で設定されていますが、具体的な制度は、次のようになります。

- ① 私立高校が、12月までの評定で3教科○○以上、5教科○○以上、9教科○○以上等の独自の基準を設けます。この基準は、全て満たさなければならない場合とどれかを満たせばよい場合などがあります。この条件も各私立高校で設定されています。
- ② 第2回三者面談(11/27～12/4)で、推薦や併願優遇等で私立高校を受験することを決定した生徒がいたら、その私立高校の入試相談日に、**中学校の教員**が、12月までの評定を記入した入試相談用紙を持って(あるいは書類を郵送)相談に行きます。**私立高校の入試担当者**が、志望した生徒の評定と基準を照らし合わせ、推薦や併願優遇等を決定します。
なお、基準には、各種検定(英検等)をはじめとした資格等を考慮している高校もあります。
- ③ 入試相談の結果、私立高校の入試担当者が、推薦や併願優遇を認めた場合は、次のようになります。

入試相談で推薦と認められた場合

* 推薦入試当日、決められた面接・作文等の試験を受験し、基準通りの力をもっていると認められた場合、合格となる可能性が高いことを意味します。

入試相談で併願優遇と認められた場合

* 一般入試日に決められた試験を受験し、基準通りの力をもっていると認められた場合、合格となる可能性が高いことを意味します。しかし、入試当日の入試得点があまり取れていないようなら、不合格になる場合もあります。

入試相談で第1志望受験となった場合

第1志望の私立高校の推薦受験を希望しているが、推薦基準をわずかに満たしていない場合、入試相談で「**第1志望受験として一般入試を受験してください**」という回答をいただく場合があります。この場合には、推薦受験ではなく一般入試日に受験をし、基準通りの力をもっていると認められた場合、合格となる可能性が高いことを意味します。

自己推薦の場合

* 最近、自己推薦制度(AO方式など)と呼ばれる制度が増えてきました。この制度は中学校の教員が入試相談に行く場合と**受験生自身が手続き(個別相談)をする場合**とがあります。基準がかなり緩和されていたり、高校によっては基準を設けていなかったりする場合があります。

* 地域スポーツや塾などに所属し、活動している団体から推薦される場合、コーチや塾講師との相談だけでなく、**保護者が直接、その高校の教員(高校入試担当)に確認をとってください**。また、中学校長の推薦を条件にしている場合、担任に事前に経過の連絡・報告をしてください。高校と中学校の間での推薦制度ではない場合、受験者(生徒)と保護者の方で個別相談を確実に行ってください。

* 入試相談で推薦や併願優遇等が認められた場合には、各高校が指示した通りに受験することになります。(受験日を指定される場合があります) 各高校で独自に行う制度ですので統一した説明ができません。入試説明会等に参加し、募集要項をよく読み、不明な点は直接、高校の担当者又は担任に相談してください。入試相談が

「ある」「なし」に関わらず、自己推薦の場合は、受験生自身がその高校への志望動機をしっかりとって臨まないと、入学後困難な状況を招くと思われます。

(1) 私立高等学校推薦入試について

◇選抜日程

事 項	日 時
出願(願書受付)	令和9年1月15日(金)～ ※ほとんどの学校が2日間程度です。
入試(面接等)	令和9年1月22日(金)～ ※ほとんどの学校がこの日です。
合格者の発表	令和年1月23日(土)～ ※ほとんどの学校が入試の翌日です。
合格者の入学手続き	～令和9年1月25日(月) ※ほとんどの学校が発表翌日までです。

※日程等は、各高校で異なります。必ず受験する各高校の募集要項で確認してください。

◇推薦基準について

- | | |
|----|---------------------------|
| 例) | 1 令和9年3月に中学校を卒業する見込みの者 |
| | 2 本校への入学を第1志望とする者 |
| | 3 心身ともに健康で、本校の教育方針を理解できる者 |
| | 4 中学校長が推薦する者 |
| | 5 高校が定めた推薦入試出願基準に達している者 |

ほとんどの高校が、以上のような基準が設けられています。これらの基準には、以下のような大切な要素が含まれていると考えたほうがよいと思います。

※3の「心身ともに健康」という言葉から、欠席日数や遅刻・早退回数等を考慮することが伺われます。高校によっては、「欠席日数は〇日までとする」「遅刻・早退は〇回で、欠席1日とする」など基準を明確に入れている学校もあります。

※3の「教育方針を理解」とは、私立高校では独自の教育方針やカリキュラムがあります。説明会等で教育方針等について説明を受験生と保護者は聞いた上で、このことを理解している必要があります。私立高校の説明会に参加していないと入学後の学校生活で困難な状況を招くことがあります。また、推薦条件に「説明会や個別相談に参加していること」を条件にしている私立高校も多いです。

※4の「中学校長が推薦」とは、本校として推薦と認められる生徒かを意味します。進路選択は受験生本人のことですが、現実問題として高校と本校との信頼関係が存在します。その信頼関係は、過去の本校の卒業生が作り上げてきたものです。そして、その信頼関係は、同時に受験をする同級生や後輩のためにも必要なものです。本校の生徒として、自信をもって高校に推薦することができる生徒であってほしいと思います。本校では、日頃から学習面だけでなく学校生活全般で、中学生として身に付けてほしいことを指導しています。しかし、ときに中学生ですから失敗もあり、そのことを指導されることもあると思います。そんなとき、学校の指導を聞き入れる様子もなく何度も指導されるようでは、推薦に値する生徒とはいえません。そして、指導される内容に「大きい」「小さい」は関係ありません。つまり、服装や不要物、生活態度(あいさつや礼儀等)、授業態度、触法行為等、全てにおいて対象となります。また、推薦に値する生徒であるのは、受験前だけでなくその後の生活においても同じであると考えてください。本校では、生徒が義務教育を終えるまで残り数ヶ月間も今までと同様、様々な場面で指導していきます。何事にも頑張っている生徒にとっては、4の基準は何も問題ないことだと思います。

※5の高校が定めた推薦入試出願基準とは、12月までの評定で3教科〇〇以上、5教科〇〇以上、9教科〇〇以上というように数値的に設定されていることが多いです。入試

相談制度を設けている私立高校は、入試相談によって推薦入試での合格可能性の展望がほぼわかります。

入試相談制度がない場合には、推薦基準を越えている志望者が出願し、各私立高校の選抜基準に基づいて順位を決め、上位から募集人数までが合格となります。よって、出願した志願者全体の成績が高い場合は、**推薦基準はこえていても**「入試相談がなく約束していないのだから不合格になる」ことも考えられます。つまり、この点からも入試相談制度の有無は、合格の可能性において大きなポイントになります。

◇出願について

1月15日(金)からが私立推薦入試出願日となります。出願提出書類や受験料の振り込みなどで不備のないよう早めに準備してください。準備の段階で、募集要項等の内容に関してわからないことやインターネットで出願する場合は、早めに担任に相談してください。

◇出願手続きについて

※受験する高校に行き、12月上旬までに必要書類(募集要項・願書等)を購入してください。

1 志願票(願書)

受験する高校指定のもので、写真が必要となります。

*本校では、**11月24日(火)**に受験用写真の撮影を行う予定です。

2 中学校長の推薦書

受験する高校独自の形式の用紙を使うことがほとんどです。推薦書を本校で記入する場合は**12月21日(月)までに「調査書作成願」[封筒]**へ推薦書の用紙を担任に提出してください。

3 調査書

調査書の形式には大きく分けて、**受験する高校独自の形式、私立高校推薦入試統一形式、公立(都立)形式**等があります。各高校でいろいろな表現をしますので、不明な場合は私立高校の「募集要項」を担任に提示して相談してください。公立形式以外の調査書の場合は、各自で高校に行き募集要項を入手し、**12月21日(月)までに「調査書作成願」[封筒]**に受験する高校用の調査書を入れて担任に提出してください。また、公立形式の調査書は、本校にありますので書類の準備は必要ありませんが、調査書作成願[封筒]に公立形式の調査書が必要であることを記入してください

※「親展」とは、宛先以外の人が開封してはいけないということを意味します。推薦書の宛先は受検先の高等学校長です。生徒や保護者の方が開封した場合には、その書類は無効となります。

4 受験料

指定された金額を指定された方法で納付してください。ほとんどの学校が、受験料を金融機関(銀行・郵便局等)で納付して領収書を志願票(願書)に貼付するか、願書自体が振込用紙になっている場合もあります。また、高校の受付に現金を持参する場合は、トラブルに巻き込まれないよう注意してください。

◇試験について

ほとんどの高校で面接があります。さらに、作文や実技検査等が行われる場合があります。日程や時程、試験の内容等は募集要項又は出願時に渡される入試説明書類で確認してください。

◇合格発表について

各高校で、ウェブサイト又は郵送等の方法をとります。募集要項で確認してください。自宅から直接発表会場(発表時間によっては登校後)に行く場合は、事前に担任に連絡しておき、**必要な手続きを済ませたら速やかに登校し、入試結果を報告**してください。

◇入学手続きについて

募集要項の内容にしたがって、生徒だけでなく保護者も確認しながら、各高校で指定された方法、期日までに手続きを確実に行ってください。第1志望としている推薦受験や第1志望受験の場合は、入学金等の延納はできません。

(2) 私立高等学校一般入試について

◇選抜日程

事 項	日 時
出願(願書受付)	令和9年1月25日(月)～ ※他県は異なります。
入 試	令和9年2月10日(水)～ ※他県は異なります。
合格者の発表	※ほとんどの学校が入試当日から2日後までです。
合格者の入学手続き	※各高校によって異なります。延納希望者は別日程になります。

※選抜日程は、一般的な場合を示しています。必ず募集要項で確認してください。

※入学金等の延納希望者は、必ず各私立高校の募集要項で確認してください。届出が必要な高校や願書に併願校名を記入する高校、中学校長や担任の捺印が必要な高校など様々です。

◇出願について

各自で私立高等学校に募集要項や願書を取り寄せ、出願提出書類などに不備のないよう早めに準備してください。募集要項等を読んで不明な点は、早めに担任と相談してください。複数の学校に出願をする場合は、移動の計画を立てて出願してください。また、受験票が自宅に返送されたら忘れずに受験番号の報告を学校にしてください。その他の日に出願する場合やインターネットで出願する場合は、事前に担任と相談して、出願が完了したら受験番号の報告と調査書受領書の確認をするため、本校へ速やかに登校してください。

※都立推薦入試受検者で、都立推薦入試の発表[2月2日(火)]の後でも私立高校の出願が間に合う場合には、都立推薦入試の発表を待ってから出願しても構いません。

※他県の私立高校への出願で、1月25日(月)では間に合わない場合があります。必ず、受験者本人が募集要項で確認し、余裕をもって早めに担任に申し出てください。

※調査書等の必要書類は、作成に時間がかかります。調査書等の必要書類を担任に依頼する場合は、**12月21日(月)までに「調査書作成願」[封筒]**に調査書等の必要書類を入れて提出してください。12月の第2回三者面談で私立高校の受験校を決定した後で、特別な理由のない限り、受験校を変更・追加等することは好ましくありません。

◇出願手続きについて

1 志願票(願書)

受験者自身で受験する高校に行って、募集要項とともにもらう(あるいは購入する)ようにください。受験する高校指定の志願票で、写真が必要となります。

2 調査書

受験する高校独自の形式、私立高校入試統一形式、公立(都立)形式等の場合があります。各高校で様々な表現をしますので、不明な点は**募集要項を担任に提示して相談してください。**

※併願優遇受験者で入学金等の延納を希望する場合、出願時に手続きを完了させる高校があるため、募集要項で確認して、必ず受験者が手続きしてください。

◇試験について

国語、数学、英語の3教科の学科試験を行う高校がほとんどで、理科、社会を加えた5教科の高校、国語、数学、英語の3教科の内の2教科を選択して受験する高校などもあります。また、一般入試でも面接を行う高校が増えてきましたので、必ず募集要項で確認してください。

◇合格発表について

各高校で、校内掲示、郵送等の方法をとります。インターネットで発表する学校もあります。各高校の募集要項で確認してください。必要な手続きを済ませて、学校のある日は速やかに登校し、**結果を報告**してください。試験日程が詰まっている場合には、学校への報告は電話でも構いません。2月11日(木)[祝日]や休日の合格発表については原則、翌日、登校したときに、**生徒が担任に必ず結果を報告**してください。

◇入学手続きについて

各高校で指定された方法で期日までに手続きしてください。併願優遇受験の場合は、出願時に延納手続きが完了している場合や合格発表時に手続きする場合など、各高校によって様々です。必ず、募集要項を確認してください。受験者が手続きを行うことになりますので、合格の嬉しさから入学手続きを忘れないでください。

6 その他の進路について

都立技術専門校(旧職業訓練校)、専修学校や専門学校、サポート校や通信制課程、就職等、様々な進路先があり、それぞれ多種多様です。これらの進路を希望する場合は、早めに担任と相談し、資料請求や出願、受験、手続き等を行ってください。

7 高校入学後の授業料等への主な支援制度について

(1) 都立高校の授業料

区 分	年 額	納入回数
全日制課程	118,800 円	年 2 回
定時制課程	32,400 円	
定時制課程(単位制)	1 単位当たり 1,740 円×履修単位数	
通信制課程	1 単位当たり 336 円×履修単位数	

※授業料以外に、修学旅行や実習教材費等の積立金、生徒会費、PTA 会費等の学校徴収金があります。定時制課程(夜間)では、給食費が必要となります。

※上記に加え、標準服(いわゆる制服)や体操着、教科書費等が別途、必要となります。

(2) 都立高校での主な支援制度

<高等学校等就学支援金>

授業料に充てるための就学支援金を支給。

○令和8年度の制度改正に伴い、所得制限が撤廃されました。

<高校生等奨学給付金>

全ての意志ある高校生等が安心して教育を受けられるよう、**授業料以外**の教育費負担を軽減するため、高校生等がいる低所得世帯を対象に支援を行う制度です。

- ・ 国立・公立高等学校等に在学する者：年額 3 万 2,300 円
- ・ 私立高等学校等に在学する者：年額 5 万 2,600 円

- ・ 国立・公立高等学校等に在学する者：年額 14 万 3,700 円
- ・ 私立高等学校等に在学する者：年額 15 万 2000 円

- ・ 国立・公立高等学校等に在学する者：年額 5 万 500 円
- ・ 私立高等学校等に在学する者：年額 5 万 2,100 円

（３）私立高校での主な支援制度

高等学校等に通う生徒が安心して勉学に打ち込めるよう、国の授業料支援制度として「高等学校等修学支援金」があります。

詳しくは、1 学期に本校で配布した「**私立高校の授業料負担軽減は全員が受けられます！**」(公益財団法人 東京都私学財団 発行)や東京都私学財団 HP(<https://www.shigaku-tokyo.or.jp>)で、「学費負担軽減事業パンフレット・動画」を御覧ください。



(4) 品川区の主な支援制度

品川区独自の奨学金制度は、「9年生保護者対象」(入学準備金・予約生)と「高等学校進学後対象」(在学応援資金)があります。特に、「9年生保護者対象」の申請期間が、10月30日(金)まで【土日祝日は除く】と迫ってきております。

御希望の方は、品川区子ども未来部 子育て応援課家庭支援係【TEL: 03(5742)6385】までご連絡ください。

※他の支援金や奨学金等との併用の「可」「不可」を必ずお調べください。

8 おわりに

これからの進路選択において一番大切なことは、**進路が決定したときに生徒の皆さん自身が、自分の将来に向かって前向きに進んでいこうと思う気持ち**です。進むべき高校等が決まったからといって、ここが「ゴール」ではなく、また新たな人生のスタート地点に立ったと考えてください。これから進路選択は、いよいよ佳境に入りますが、生徒の皆さんが改めて自分自身のことをもう一度よく見つめ直し、よく知ることが大切です。進路を決定させるのは、やはり簡単なことではありません。悩むことや落ち込むことは当然ありますが、そのような経験から逃げずに立ち向かうことが、変化の激しい社会を生き抜いていくたくましい心が育つのだと思います。絶対に途中で投げ出したり、あきらめたりしないでください。友人や家族、先生方は、必ず相談にのってくれるはずです。**最終的に決めるのは生徒の皆さん自身**だと思いますが、一人で悩まずに、いろいろな人の意見を聞いてください。考え方の幅も広がり、冷静に判断することができると思います。広い視野と長い目で、自分の人生をじっくり考えるよい機会です。進路選択を通して、少しでも自分を磨き、荏原五中を卒業してもらいたいと願っています。